# 磐城新聞

（廿一日夕刊）

休刊　大祭日　第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢〕
廣告料〔一行平錢指定廿錢增〕
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町匠町拾六　磐城新聞社


## 神經衰弱の話

齋藤平義智

神經衰弱者は米國に多いので、一頃神經衰弱のことを米國病と云つてゐた、それが一八八一年ジョージ、ベアードといふ人によつて始めて神經衰弱といふ名が與へられた、ところが近頃この神經衰弱の親類筋に當る病氣で、精神衰弱といふ病氣が現はれた、實は現はれたとはいふものの、神經衰弱の一種類で、別に區別しなくとも事足りるのであるがこんな分類を試みた學者があるのである。精神衰弱といふのは、一口に云つてしまへば神經病と神經衰弱の重いもので精神病と神經衰弱の中間に位する精神の病氣である。

精神病患者は、自分がどんな病氣に罹つてゐるのか病識を持たないが、精神衰弱患者はこの病識を持ち過ぎる程持つてゐる。即ちあらゆる自分の病狀を算へ立て、明細な箇條書にして醫者を訪れ、微に入り細に穿つて質問の矢を放ち、納得が行かねばそれからそれへと醫者を歷訪して歩くこれ等の行爲も無論症狀の一つであるが、精神衰弱患者は診察してみても、別に特殊の症狀があるといふ譯ではない、まづ大抵は顏が充血し、手や眼瞼が痙攣し、膝反射が高く、皮膚は敏感で擦ると赤くなり、血管運動神經と交換神經の異常が分る位で、神經衰弱と大いして變つてゐないのである。が、その行爲は普通の神經衰弱患者とは餘程異つてゐる、大勢の前に出るとひとりでに顏が赤くなつて一言半句も口が利けず、絶えず胸がワク／＼する、かと云つて誰もゐない室（それも大廣間など）に獨りはいらうものなら、何と云へぬ不思議な孤獨感が迫つて來何だか恐ろしくて暫くも居たゝまれない、その他、いろ／＼の强迫觀念に襲はれ、生理的にも色々な異常を起して來るのである、精神衰弱は不治の病氣ではない、處置さへよければ治り得る病氣である「先生、眠られないのですどうしても目が冴えてしまふ、一體人間がいつまでも眠られなかつたらどうなるでせう、こいつに一番困るんです先生どうにかして下さい」かう云つて精神衰弱患者が訴へたら、まづよく眠れる藥を與へ患者に一と安心させる事である。

この先生のところへ來たらよく眠れた、この分ならうまく病氣も治せるだらう……前途に光明を抱かせるようにすればもう成功の一歩だ、患者の主なる訴へから順々に容れて行き信頼と滿足の裡に病を治癒せしめるのである。またこの患者は不平不滿を盛んに訴へ沸き立つ感情を綿々と吐露するが、感情に放出すればあとはサッパリした心になるものであるから、醫師は心よく相手になつてやりよき聽き手となることも必見で醫師にとつて却々世話の燒ける患者でもある。

### 身邊雜詠

小名濱　嵯峨和

吾が爲にかくもなやみぬたらちねの母の心のその心はも

なくさむる術もしらざる子なるかや母のみぬかの皺見る數に

いかでかやなぐさむ術のなきものかひとひやつれし母の面みて

たまさかはこゞともいへどいつくしみ母をおいては他にあらめやも

みちのくの妹が注むてふ大川べを歩みて見たし新綠の頃

氣まぐれに狂いても見ん吾が性は今日ひごろのいらだつ心に

たまさかは君の笑顔をみんものと訪れせしも君はをらさじ

不漁にて濱の漁船は房州へと出漁すべく今朝港いづ

たらちねの父入歸る夕まけは鐘音聞きゝ淋しけるかも

### 明日の吉凶

新曆六月二十二日
舊曆五月十六日

▲一白　外交には勝利を得難き日五分に滿足せよ▲二黑　何事にも平和を願ひ且入先に立たぬが安全▲三碧　沈みたる氣分を追々と晴やかに成り行くべし▲四綠　內にありて精勵せば幸運なる日となるべし▲五黃　元氣湧くが如く無理と思ひし事も成るべし▲六白　氣乘りせぬとも利は薄くとも怠るまじき日▲七赤　生氣潑らつたる日多少の障碍に逢ふも進むべし▲八白　天を恐るものには成功無し自らを責めよ▲九紫　浮薄に流れず實收を目的に進むべき發展日

## 小說　死を超ゆる者

(17)　三上於莵吉作　布施平八郎畵

効なき奔命（二）

「ほゝう！」と高山は叫んだ

「こりや年代記ものだせ！君にしてなほ且つ歳末の難儀ありか？一体どうしたわけなのだ、この堅造がサ……それとも拔けがけに遊蕩んだ後始末が出來ないつて言ふんだらう……一應我輩に屆けないでそんなことをしたのなら知らねわ——知らねわ」

「裏迎を言へ」勇は苦い顏をして

「人間一人の生命問題なんだぞ」

「現金でも金でも生命が買へるか？」と高山は皮肉に言つた

「往々」と村越はボッリと口を挾んだ

「往々買へるのだ」と勇は引取つて言つた

「で、內容はその位にして後は聽かずに呉れ給へ、そして君たちのやうな經驗家は此の場合、僕に高利貸へ紹介狀を書いて呉れる義務があるのだ」

「驚いたなあ」と高山はほんとうに驚いたらしかつた

「で、必要とあれば紹介もするが一体金高はどの位なんだ！」

「六千圓」

「ね、こいつぁ部屋棲みのお互にや大金だぜ」

「そら君、眞實か冗談ぢやなからうね」

「眞實とも、冗談どころか僕は眞劍だよ」

「こいつは、いさゝか辟いた難問題ぢや、若し君が眞劍と云ふなら僕等も眞劍に考慮せにやならんがこいつは全く僕等には荷が重過ぎるんで」

「止むを得なければ四千圓」

高山は小首を傾けた

「ちよつとむづかしいなー大學生を五百圓で買つて江馬の息子の値が五百圓、千圓が相場だらう」

「それなら六軒から借りればいゝわけだな」と勇が言つた

「益々もつて驚くよ、いくら僕がつて高利貸を六軒なんて知つては居ない」

「貴様は三軒知つてゐる筈だ」と鳥の巣も村越が言つた

「その內の一軒は潰れた」

「ちやあ二ヶ所でいゝから紹介し給へ」と勇は言つた

そし傍の机の上からレターペーパーと萬年を取つて其處へ置いた

高山は少し辭氣を拔かれた氣味で、言はれるまゝにペンを執つた考へ／＼書き記した文句は次のやうなもあつた

拜呈益々御淸昌大賀の極みに御座候、先日は毎日御足勞恐れ入奉り候、扨此狀持參の紳士は大塚仲町に居住せらるゝ富豪江馬大八氏令息勇氏に御座候が、今回貴殿より至急金融相須はし度き趣き何卒よろしく御便宜御計ひつかはされ度く形式ながら連帶人は小生署名仕るべく、實印同氏に委托いたし置き候早々敬具

高山　便助

本郷區森川町二番地
大村權左衞門殿

「もう一通同文通牒を發しよう」と高山は笑つて春日町に住む太田といふ金貸へ認めた

「有難う」と勇は二通の手紙の紹介依頼狀を受け取つて大事さうに机に載せて

「で、實印を僕に預けるつて書いてあるが……」

「ボラ來た」

高山は時計の銀鎖から水晶の印形を外してポンとほふつた、そして

「委任狀は要らない、その手紙があるのだから」


三大名玉篇逐公開

壯快無比若者の意氣純情溢る微笑爆笑抱腹悶死
◇パラマウンド百萬弗超特作大映畵監督ジョン、グレイ氏◇
野球大喜劇　ロイドのスピーデー　全十卷
◇久し振にハロルド・ロイドが猛烈な野球狂となり例の愉快な笑ひを乘せて行くホームラン王ベーブルース特別出演

◇阪妻プロ草間派大作映畵
天保俠炎錄　全
草間實　泉春子…主演
助演　中村琴之助　月村節子　中村政太郎　伊東淳兆

二十一日替り高級映畵常設
土曜デー　學生
平館

◇河部五郎が退社に際し代役として大日活に新入社せる淸川壯司が最も自信をもつて完成せる名篇
逆轉　全
伏見直江　尾上桃華　市川小文治　糸讓

料金普通

移轉開業

古鍛冶町在住當時は一方ならぬ御懇情を賜り殊に類燒の際は特別の御高配を戴き候段奉深謝候
今回左に移轉開業致し候間將來とも相變らず御引立のほど奉願仕り候
六月二十日
平町田町元甲子裏
青山易斷所
青山而象

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目　勸業債券　復興債券　公債其他　兩替　金融　質物一般　取扱
多田井商店
平町大工町

蜂（ハチ）ブドー酒（シュ）
團欒への一杯！
賓客への一杯！
健康への一杯！
品質本位
美味＝最も芳醇にして萬人の嗜好に適し
滋養＝最も豐富にして氣力と體力を增す
近藤利兵衞商店
2-60

生徒大募集
七月一日新學期開始!!
甲種運轉手たらんとするものは本校に來れ　茲に七月一日の大募集を開始せり。來りて本校獨特の敎授法と練習の猛烈なる事實を御覽せられんことを希望す。而して其眞劍なる努力ゝ眞相に直面せば必ずや首肯せらるゝ所あらん。學資の低廉亦全國無比、七月一日の一大好機を逸する勿れ。
（毎月一日入學許可）
◉本科（三ヶ月卒業）一ヶ月分　金二十五圓也　學科習實費共
◉速成科（二ヶ月卒業）一ヶ月分　金三十圓也　學科實習費共
◉受檢科（一ヶ月卒業）一ヶ月分　金三十五圓也　學科實習費共
各科共　フォード、新フォード　シボレー使用
▲學則及び入學案內申込次第進呈す
平町四軒町
公認　磐城自動車學校
電話　六四〇番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

ユラノスケ　粕取燒酎（六月一日ヨリ發賣）
二合白瓶一本　二十五錢
（從來通り空瓶交換仕可候）
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元
電話　二〇七番

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病　市原三三男
平町田町本通
市原醫院（入院隨時）
電話一一四番

初夏です
貴女方の旅行に外出に
パラソル！日傘！
それ／＼華奢な扇子を御持ちでしたらどんなに御似合でせう
1・50………
…………・38
扇子
………——
——1・80
パラソル
2・50——1・35
3・50——1・80
日傘
ヤルツ

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

# 晴れやかに開かれた 平町普選當初の町會
## 委員の推薦も案外無事に 家屋税は原案承認

平町の初町會は二十一日午前十一時より元郡役所會議室に於て開會した、定刻前多數の傍聽者は場の內外に溢れ呼び物の委員推薦その他の結果如何を見んとする緊張裡に定刻各議員は當選順着席するや伏見町長の挨拶あり壁頭抽籤により各議員の席次を別項の如く決定し伏見町長は

△會議録署名人 佐藤岩次郎 緑川喜三郎

の兩氏を指命し愈々議事に移り縣税家屋税賦課方法の件を議題とし伏見町長は原案說明をなした 即ち本年度賦課された縣税家屋税は二萬四千三百六十三圓十錢にして前年より十二圓四十四錢を減じ前期分一萬二千百八十一圓五十二錢は家屋四十一萬七千九百三坪に賦課す一坪當り賦課金は二錢九厘に相當してゐると 說明し原案通り可決確定し次に臨時出納檢査立會議員三名 原案に對し井上氏より五名に增員し選擧の繁を避けて議長指命の動議成立し伏見議長は

△出納檢査議員(五名)萩原義雄 佐々木龍若 青沼錄太郎 野崎滿藏 坂本隆藏

以上を指命したるを初め土木、第三小學校並に第四小學校、役場建設の各委員並に區長を左の如く推薦認定して萬場に諮り萬場一致を以て承認し午後零時二十分休憩を宣した

△土木委員 馬目武之助 吉村安次郎 吉田寅之助 吉田五平 高橋龜松 荒川恒次郎 緑川喜三郎(七名)

△第三校建築委員 佐藤岩次郎 荒川淺次郎 佐々龍若 永山富廣 根本品藏 齋藤敏貫 鈴木光吉 井上茂作 花澤兎五六 石山治三郎 武田元之助(十一名)

△第四校建築委員 萩原義雄 大森勇 根本品藏 國府田直良 千葉彦治 吉田五平 猪狩庄平 關內正一 櫻井清(九名)

△役場建築委員 國府田直良 齋藤敏貫 馬目雅治 井上茂作 花澤兎五六 猪狩庄平 野崎滿藏 柳下元吉 坂本隆藏(九名)

△區長及區長代理 第三區馬目玉瑚、第六區山崎孝之助、第十區長小次郎、第十二區酒井政之助、第十五區花澤兎五六 第十八區仲野伊重(代理者氏名省略)

以上を指命或は推薦認定し午後零時二十分休憩午後一時半より再會し金古政通氏より申請中の平町會選擧無効に對する討議に移る事となつた(午後零時半記)

# 委員推薦も無事に 流石普選町會
## 伏見町長の苦心も認める 平町會の分野

平町會の政黨的分野は政民の兩派に大別されてゐるが政友系には中正會、一新會の小派をなし之れ等は政友系として當然合流されるもと觀て誤りなく今二十一日の初町會に於ては委員の推薦につき內々各派に於ける協議の上伏見町長に望む處あり随つて其の推薦決定も民政系より二、政友系より純政友、中正、一新の各派一名宛三の比率を以て決定し相當の異論紛議を想像されてゐたのに反し極めて平和に始終した事は普選頭初の町會として誠に喜ぶべき事であると稱されてゐる因に各派別左の如し

△政友派(十八名)

(純政友)井上茂作、高橋龜松、千葉彦治、國府田直良、石山治三郎、佐々木龍若(以上六名)

(中正會)猪狩庄平、坂本隆藏、關內正一、馬目武之助、根本品藏、鈴木光吉、緑川喜三郎

(一新會)青沼錄太郎、大森勇、花澤兎五六、荒川恒次郎、齋藤敏貫(五名)

△民政派(十二名)

(民政系)吉田五平、野崎滿藏、萩原義雄、吉田寅之輔、柳下元吉、馬目雅治、永山富廣、櫻井清、武田元之助、吉村安次郎、荒川淺次郎、佐藤岩次郎(以上十二名)

而して委員推薦については各派とも夫れ〲伏見町長に對し注文乃至要求をなす處あり之れ等利己的主張を酌み入れ比較的公平に按配推薦した事は伏見町長の苦心も或る程度まで認むべきであるとの事である

# 新舞子に遊ぶ(中)
城山隱士

○同日午後一時滯りなく同志一同横川辨天島に會合す今や遲しと待ち受けたる艤裝せる舟所謂所要一切の船具器械釣竿其他酒肴の用意なく萬端をさ〲怠りなく整ひて待つて居た舟に飛び乘りて早くも水竿もて漕ぎ出す人さへ出來たのである既にして時刻は好し同志一同は乘り移り順風に舟を運ばせ乍らしづ〲と漕ぎ出した風景は何とも云ふに謂はれざる面白味がある昔し支那の宋の蘇東坡が前赤壁賦を詠じ歌ふて曰く蘇子客と舟を泛べて赤壁の下に遊ぶ清風徐に來り水波興ら酒を擧げて客に屬し明月の詩を誦し窈窕の章を歌ふ暫らくして月東山の上に出で斗牛の間を徘徊す白露江に横はり水光天に接す一葦の行く所を縦にして萬頃の茫然を凌ぐ浩々乎として虚に馮り風に御して其止まる所を知らざるが如く飄々乎として世を遺て獨立羽化して登仙するが如しと昨日まで普選初頭の町會議員選擧に被選擧人所謂候補者は云ふまでもなく選擧人の我々までが何となく黄塵萬丈の中に俗了せられたるが如き思ひありしが今日此舟遊は蘇東坡ならずとも獨立羽化して恰も天上登仙して逍遙遊をなすが如きの思あらしめた

是に於て酒を飲み興酣にして歌ふて曰く

風薫る　苦葉も淡き
初夏の　野邊の千草の
薄緑り　夫にもして
兩岸の　松は一しほ
色ぞ濃き
横川の　清き流れに
うつろへて、深みいやま
す
そが中に　舟浮け遊び
舟ばたを　たゝへて歌ふ
舟うたも
琴の音の　すみて聞ゆる
瓜音も　松風さそふ
遠近の　河岸　苔し
釣まさへ　あわてよため
き
たどろけり
松林一日千本
樹々の樣　妙なる彼岸
彼方には　よせてはかへ
す
荒ら波も　くだけて白き
白妙の　布敷きつめし
新舞子かな

と調子ゝ變に歌ふ者あれば唐變木の漢詩人もある今更漢詩でもあるまいにと

孤舟操棹泛清流
絶景當由舞子州
昨哭俗塵今此樂
悟然離世覺仙遊

と朗詠したる者もある中には又新舊俳人とも云ふべ入が居と所謂新派俳人の作に曰、

冷風や同志舟遊す　新舞子　甲人
新舞子舊舞子にも優る景色かな　乙人

又舊俳人の作に曰く

百景の名にふさはしき新舞子　丙人
舟出して興酣はに風薫る　丁人

など日和は好し酒は良し肴は善し加ふるに横川名物の蜆汁など時に取つての好物に羊形さへ加はりたれば興何時盡くべしとも見わず舟に帆を掛け流れに任せて優遊自適するも心ゆくばかりである

又力をも入れずして天地を動かし目に見わぬ鬼神をもあはれと思はせ男女の中をも和つげ猛き武士の心をも慰むるは歌なりとまで紀貫之大人の譽め稱へたる和歌の道にも携はる人々ありて

横川の清き流れに棹さして世の憂き事も流しけるかな
須磨明石舞子の濱は舊りにしを我新舞子獨りともがな
砂白く松原青く水清く遠見がくれに磐城富士見ゆ

など多かりしが今は悉く書き盡くすべくもあらねば其餘は書かず。

# 平紹介所が調べた 炭礦勞働者の賃金
## 男最高は二圓八十錢 「附坑夫な迄で」

平職業紹介所では既報の如く常磐七ヶ炭礦の勞働者の性格坑夫になるまでの經路身體等を精細に調査中であつたが地下四百尺の中にカンテラを燈して熱と戰ひ汗に生きてゐる採炭夫から支柱夫、工作夫、運搬夫、機械夫に至るまで種々多々なものでこれら炭坑勞働者の賃銀其の他を聞くに坑內勞働者は一日最高男二圓八十四錢、女一圓八十一錢九厘最低男一圓一十八錢、女一圓四十九錢、坑外は最高平均男一圓六十六錢、女八十七錢九厘、最低男八十一錢、女四十三錢九厘にして勞働時間は火入八時間を外は又就職の經過は募集員の手に依つて來たものは極く成績良く緣故、公設職介所を經たるものは頗る永住性あみ成績良好である、因に本縣人の勞働者は五萬四千五十人に達してゐる

# 出繭は少なく 金高は上る
## 四倉の繭市場

四倉繭市場では昨報の如く出廻り激增のため收容しきれず今二十一日は休場する外に午後より出繭が少なかつたので今日も續けて取引を開始してゐるが二十日の總貫數は白一千一百二十四貫五百三十匁黄二百十貫九百九十匁合計一千三百三十五貫五百二十匁で開場以來約千貫の激減であつた最高値は白八圓二十四錢、黄七圓五十一錢最低白五圓五十錢、黄六圓二十錢平均値白七圓八十六錢、黄七圓二十一錢であつたが値は昨年に比べるとずつと高調子で昨年同場での買入總貫數一萬七千貫に比較して貫數が少なくても金高は多額に上る管である

# 雨は當分降らぬ
## 入梅に入つて丸の十日 小名測候所發表

石城郡地方は梅雨季に入つて更らに雨らしい雨が降らず水不便の水田は全く涸水し剩へ洪水のため各江筋は破損し減水を見てゐるので少し高地にある水田の如きは給水不能に陷り田植もどうかと憂慮され各農家は途方に暮れてゐるが江筋工事の復舊しても田植は遲れるものと觀られてゐる、小名測候所の觀測によると雨は未だ〲降らぬ、けふは早朝から曇天模樣で今にも降りさうであるがこのまゝ天候は持續し明日の正午頃から晴れ氣分になり明後からは全く前日の如き晴天を豫想されてゐる明二十二日は夏至であるが入梅季入つてから今日で十日目であるのに眞夏の樣な天候を見たのは梅雨季に稀れる自然溫度の昂騰してくるめ、鬱陶しいほんとの梅雨數日後でなければ來ぬと觀測されてゐる

# 石城地方の 水不足
## 田植が出來ぬ

石城地方は梅雨に入つても毎日の晴天續きのため上遠野村方面山間部は河川が干あがり灌漑水の欠乏を來し目下田植を控へ農家は何づれも狼狽してゐるが內郷村方面に於ても植付不能のところあり石城郡農會でもそれ〲對策講じてゐるが今後一週間も降雨がなければ水爭ひなどが惹起する恐れがあり憂慮されてゐる

# 勿來共同出荷

石城郡勿來町では今二十日繭の共同出荷をなすので郡蠶業組合本多技師出張して指導した

# 平町會の 議席順位

平町會議員の議席順位は抽籤の結果左の如く決定した

一番 佐藤岩次郎
二番 荒川淺次郎
三番 萩原義雄
四番 佐々木龍若
五番 武田元之助
六番 永山富廣
七番 大森勇
八番 根本品藏
九番 國府田直良
一〇番 齋藤敏貫
一一番 馬目武之助
一二番 吉村安次郎
一三番 櫻井清
一四番 鈴木光吉
一五番 馬目雅治
一六番 吉田寅之輔
一七番 千葉彦治
一八番 吉田五平
一九番 井上茂作
二〇番 花澤兎五六
二一番 猪狩庄平
二二番 青沼錄太郎
二三番 石山治三郎
二四番 野崎滿藏
二五番 高橋龜松
二六番 關內正一
二七番 柳下元吉
二八番 荒川恒次郎
二九番 坂本隆藏
三〇番 緑川喜三郎

# 勿來會館
## 舊小學校舍改造

勿來青年團が多年の懸案だつた青年會館設立に就ては小學校の新築に伴ふ舊校舍の一部を町より讓り受け相當改善を加へて使用すべくそれ〲交渉中であつたがこの程町會にたいて漸く三十餘坪の舊校舍を一棟無償にして青年團に讓渡する事に決したので同團では目下農繁期でもあり今秋までに一千餘圓の工費を投じて手入をなす事となり完成の曉に模擬議會辯論會等も開催すると同時に各種の會場として廣く實用に供すべく意氣込みで着々準備中

# 七十七の出張所
## 小名濱に設置認可

仙臺市所在第七十七銀行では平支店の隆昌發展につき新興の小名濱町に出張所を新設する事になり豫て大藏省に認可申請中の所十九日付縣經由で認可の指令があつた

# 平稅務署の 兩稅決定
## 異議更に皆無

平稅務署では過般決定した所得稅營業收益稅の決定通告をそれ〲發し二週間の二十一日まで異議申立期間を與へたが通知後內容について問合せて來たものがあつたけれども異議を申立たものは一人もなかつたこれは調査委員の公平な決定方法であつたことゝ稅務當局が財界不況を考慮して立た原案とがその宜しきを得た結果であると

# 失業坑夫を 特高課で斡旋 救濟

石城郡赤井村川瀬炭坑の誠首坑夫百餘名並に家族の救濟方法につき縣特高課ではそれとなく善後策を講究中のところ今回磐城入山兩炭坑で大阪方面に石炭の販路を擴張し採炭增加に伴ひ磐城炭坑では五百名入山炭坑は百名の坑夫募集をすることになつたので特高課はこれに採用する樣目下兩炭坑に交渉中であるが從來の飯場及び親方關係からして全部の使用は至難と見られてゐる

# 平町會
## 傍聽席より

晴れの檜舞臺に昇つた三十頭顱をザット見渡すと和服七分に洋服三分の組合せ、十七番千葉議員の黑の紋付きと十番齋藤議員の純白の立襟洋服が殊のほか人目を惹いた

◇　◇

伏見議長開議を宣するや十六番吉田(寅)議員壁頭第一の發言を求め「普選の今日「我が大平町を清く明るく」等々の美辭を並べた希望意見は町長に聞かせるより、傍聽席に聞かせたい樣な大演說ソ未だ選擧立會人問題に伏見町長を不公平と論難し「以後は必らず至公至平を希む」と出た處、八百長かなくて氣に入つた

◇　◇

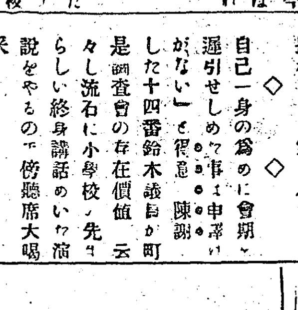
自己一身の爲めに會期を遲引せしめて●●●中平がない」と徂島陳謝した十四番鈴木議員が町是調査會の存在價値云々し流石に小學校の先生らしい終身講話めいた演說をやるので傍聽席大喝采

◇　◇

七番大森議員「舊案名稱は第四小學校建築委とあるが第四校は未だ建築の具體案がなく準備代だから前町會當時に做つて建築委員としたらどうだ」と注意を興へると伏見町長逸さず「●●●●●●行けば段々建築●●●●●ます」はチト負け惜みが強い(傍聽子)


新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一(電話五五九)

綠したゝる初夏!!
かるく涼しく　丈夫な白靴
△弊店獨特……白革底
自製品 A……六、〇〇
B……七、〇〇
靴の御用は……形ト仕事ト
安價デ……確實な
平田町
大塚支店製靴部へ
電話七〇二番



スッポン飴　一圓　三圓
スッポン酒　二圓
スッポンヘモクロビン錠　三圓
平町五丁目角
山野邊藥局

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

(切取線)

名題
一 尾上菊三郎
一 音羽多見丸
大一座
讀者觀劇券
(此券持參の方は金十錢)
六月十八日より
聚樂館で
磐城新聞社發行